

# 北海道産食品の輸出促進を目指して

## —苫小牧港発冷凍小口混載輸送の取り組み—

2019年5月28日

苫小牧埠頭株式会社

苫小牧埠頭株式会社（本社：北海道苫小牧市、代表取締役社長 橋本哲実）は、北海道の優れた農水産品や加工品等の輸出を一層拡大するため、苫小牧港利用促進協議会による支援を活用して、2019年7月～2020年3月までシンガポールとマレーシア向けに冷凍小口混載輸送事業を開始します。

本事業は、苫小牧港が「食」の国際物流拠点化を目指すため、海上コンテナ1本に満たない小・中ロットの貨物や、航空運賃では割高となってしまうような道産食品に対し、苫小牧埠頭(株)が所有する冷凍倉庫(3,500t)を集約拠点とした冷凍小口混載輸送を実現し、低コスト運賃の提供と安定したコールドチェーンによって北海道の食の輸出促進を図るものです。

事業提携先として、シンガポール向けに実績のある(株)プライム・ストリーム北海道と、マレーシア向けへの輸出を開始した(株)とかち製菓と提携した商流の確保と、ドライバー不足等による輸送力低下が著しい道内冷凍輸送を解決するため、道内各地に集荷・冷凍拠点を持つ(株)ニチレイ・ロジスティクス北海道と提携した物流サービスの強化を図ります。

### 【冷凍小口混載輸出の概要】

項目	シンガポール向け	マレーシア向け
仕出し港	苫小牧港	苫小牧港
仕向け港	SINGAPORE	PORT KELANG
期間	2019年7月～2020年3月	2019年8月～2020年3月
頻度	2回/月	1回/月
温度帯	-25℃	-25℃
海上輸送日数	約18日間	約24日間

苫小牧埠頭(株)は、苫小牧港における道内最大級の温度管理型冷凍冷蔵庫の建設をはじめ、「食」の国際物流拠点の形成を目指す取り組みを進めております。

今後とも「世界の北海道」における食産業の発展と輸出促進、物流高度化への貢献を図る所存です。

以上

《参考》

苫小牧埠頭(株)は、道内最大の港湾である苫小牧港において温度管理型冷凍冷蔵庫（20,200t）を整備することを目的に北海道クールロジスティクスプレイス(株)（以下 HCLP）を設立し、「食」の新たな国際物流拠点の形成を目指しております。

本施設は、苫小牧港唯一の「港湾型冷蔵倉庫」として、産地型と流通型が中心である既存の道内物流を補完する新たな物流モデルを構築し、①道内食品出荷の安定化・平準化、②食品加工業の育成、③道内産品の混載・共同化、④空港と連携した輸出入体制の強化等による物流の高度化を通じて、北海道の食産業の更なる振興に寄与し、道産品の輸出拡大、食関連産業の高付加価値化に貢献するものです。

【完成予想図】



【現地航空写真】



【施設概要（予定）】

建設地	苫小牧市弁天1番地(苫小牧国際コンテナターミナル隣接地) —苫小牧東港に立地、新千歳空港に近接、高速道路、札幌圏、苫東産業地域と連携
規模	敷地面積 28,441㎡ 建築面積 3,984㎡ 延床面積 14,178㎡
構造	鉄筋コンクリート造、地上4階建
収容能力	20,200t うち冷蔵 7,500t、冷凍 7,700t、冷凍・冷蔵切替 5,000t
対応温度	冷蔵0～15℃、冷凍－38～－25℃、冷凍・冷蔵切替－25～15℃
鮮度保持機能	CA(Controlled Atmosphere)冷蔵庫 2,800t、急速冷凍庫、加除湿装置
省力化設備	自動温度制御、自動倉庫、移動ラック、IT活用等
省エネ・環境対策	外断熱工法、自然冷媒機器(二酸化炭素、アンモニアを使用)等
BCP対策	耐震Ⅱ類、津波避難場所機能、免震装置、非常用発電機等
総事業費	70億円
着工・竣工・開業	2018年8月着工、2020年春竣工、営業開始(予定)